

松本孝四郎

行年七拾五歳

まつ筍の極付を／して

楽寝よな

寝かへりをすれば地獄極楽裏表立役

変じて敵役皆ぜうはりの鏡にうつる

にくまれもの鬼にもまけぬ根生は

是が御江戸の御取立偏に御余光

有難く且は残れる倅高麗蔵事

何れも様の機嫌をそこなわぬより未長く草

葉乃影より見るめかぐ鼻親の光りは

七光り消行心実を悪とかく芸道

二筋は腰折ぬ様兼て海老の兄きへ

相頼み申候己が名のこまの手綱はゆるさぬと

申かわせども何を申も若年の事ゆへ

覚束なく何卒私の佛と思召たゞ／＼御ひるき

御取立の程偏に奉希上候